

# 小規模雪崩で登頂直前の撤退—白毛門

(報告) U

◎日程 2016年4月2日(土) 前泊～3(日) 曇り晴れ

◎参加者 F(L)、U

曇り予報の水上地方は生憎の小雨。19時過ぎの土合駅は先客たちの宴会と歓談で賑やかです。屋根と蛍光灯のある無人駅の構内は風雨や寒さの心配もなく、マットとシュラフだけで寝ている強者も。私はほろ酔い加減で本を読みながらの就寝です。贅沢なテン泊……。

翌朝6時前に登山口を出発。風は無いものの展望もなく、雨ではないのが幸いというほどのしっとりとした曇り。690mという標高の低さもあり気温は7.4℃。寡雪の年ながら増水があり、土合橋で若干の渡渉をしてのスタートです。雪が積もってあれば気にならないはずの木の根と石ゴロゴロの大きな段差に、藪漕ぎ・木漕ぎの連続。頭上にはマンサクの黄色い花が咲き乱れ、足元に群生しているイワカガミにはピンクの蕾が。まだ4月に入ったばかりだというのに、明日にも咲いてしまいそうです。いま担いでいる残雪期の装備一式、本当に使うだろうか……。さすがのFさんも「雪さえあれば～」と少しポヤいておられます(笑)。



(満開のマンサク)



(イワカガミの蕾。咲きそう！)

1時間半ほどで標高1145m地点。念願の雪です。晴れの日には見られない、薄日と霧が作り出す幽玄な雪の森の世界を堪能しました。そして針葉樹の多い混交林にブナが混ざってきた頃、葉を落としたブナ林の向こうに白毛門の稜線が見え始め、みるみる間にガスが晴れて青空に。左手に聳える谷川岳も雲海を従え、稜線を現し始めました。なんという絶好のタイミング!!

松ノ木沢ノ頭(1484m)手前でアイゼンを装着。雪が腐れて歩きにくいのですが、青空の下、ブナの枝幹と殻斗だけが色をもつ真っ白な雪面を歩くのは気分爽快。やっぱり来て良かった。自然と笑みがこぼれます。

そして1605m、頂上までもう一息の地点で人生初のアバランチトランシーバー実地装着。と、まさ

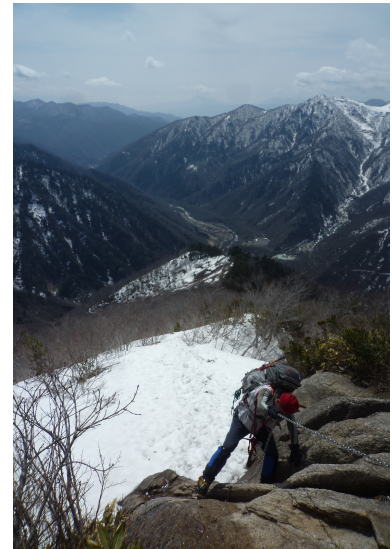


(ブナ林の向こうに白毛門の稜線)

にそのとき。ゴゴゴゴゴゴゴ……！ 見れば登山道の 10m 脇、目の前で小規模雪崩が。気温 11.6℃。単独者や他のパーティは登っていきませんが、Fさんは「降りよう」と即決。例年の積雪があれば今日実施予定だった雪上講習に向け慌てて読んだ Oさんお手製テキスト『雪崩回避&スノーレスキュー』「高橋の 18 度法則」によれば、確か見通し角 18 度で標高差と水平距離の比率は 1:3 だったはず。現地点は見通し角 18 度&比率 3 どころではなく……。雪崩はレスキュー(される)実地訓練よりモチロン回避！ ビーコン装着後 1 歩も歩いてないけど回れ右！ 山頂の景色を目に焼き付け早々に下山開始です。

安全な地点まで降り、地図とコンパスを出し山座同定とお茶を楽しみ大休止。正面には昨年小吹雪決行・今年悪天中止と目下片思い中の赤城山がきれいに見えています。陽光で温度計は 18℃を示しており、シャツ 1 枚で爽快。前週の標高差 1400m に比べれば今回の 900m 強の往復は何ということもなく、春のピクニック気分。慣れとは恐ろしい……。

13 時半に無事下山すると駐車場の脇では猿たちが一心に食事中で、ふと足元を見渡せば落ち葉の下に露の臺が。少しお裾分けさせてもらいました。その後スキー客のない露天風呂を一人独占し、ゆっくりと体をほぐしてから帰京。 昨晚北上したときには見られなかった上越方面の満開の桜並木が、まだ陽の残る関越道から次々と目に飛び込んできます。穏やかな春の日がゆっくりと暮れて、「お疲れさまー」と言われているようでした。



(晴天の景色を楽しみつつ下山)

5:50 土合橋登山口駐車場(690m) →10:00 (1605m 地点・小規模雪崩発生、撤退) →10:50 松ノ木沢ノ頭 →13:30 土合橋登山口駐車場